

平成21年度 二松学舎大学 日本漢文教育研究プログラム 公開講座

平成21年度日本漢文教育研究プログラムが開催する特別講義等は、日本漢文学研究又は漢文文献の調査・整理に関心を持つ若手研究者及び書誌調査の専門技能者を育成する講座です。受講対象者は、学内外の大学院生及び院生レベルの若者を主とし、他に一般社会人等にも、講義あるいは講習等を通じて必要な基礎知識と技能を身につけていただくことを目的としています。

◆受講料：無料 ◆対象者：学生、研究者、教員、図書館員及び一般の方 ◆会場：本学九段校舎

◆応募締切等：各講座の開始1週間前 [A:特別講座(1・2)は、受講申込により先着順受付とし、定員になり次第締切ます。]
[B:集中・演習講座(3～8)は、受講許可の選考を行います。]

◆申込・問い合わせ先：二松学舎大学日本漢文教育研究プログラム事務局 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16 (九段校舎)
TEL: 03-3261-3535 Fax: 03-3261-3536 e-mail: coejimu@nishogakusha-u.ac.jp URL: http://www.nishogakusha-coe.net

講座名	内容	講師	所属	期間・時限等	募集人員
特別講座	1 江戸の漢文 昨年度に引き続き、江戸時代の日本人が書いた漢文の名作を鑑賞することを目的とする。テキストは、明治初年に石川鴻齋(英)が尋常中学校用教科書として編輯した『日本文章軌範』七巻を用いる。同書には、当時在日した中国(清国)人の批評も加えられていて、日本人の漢文能力に対する中国人の評価を知ることができる。	佐藤 保	本学顧問 前理事長	月曜日 6時限 前期・後期	締め切りました
	2 江戸の漢詩 江戸時代は、日本における漢詩の“空前絶後”の繁栄期である。260年の江戸時代を、四期に分け、それぞれの時期の代表的な作品を解説し・鑑賞しながら、その発展の様相を見、併せて日本漢詩の独自性が那邊に在るかを考え、今年は、中期から下期へと進む。	石川 忠久	本学顧問 元学長	木曜日 6時限 *注3	締め切りました
集中講座	3 江戸時代の漢籍受容 江戸時代は漢字文化の最盛期とも称しうる漢文大衆化の黄金時代でした。このころ流通した漢文典籍は和刻本と呼ばれ、江戸時代初期から明治時代の極初期まで夥しい量の出版が行われました。これらの出版は当然、中国大陸の出版文化の影響を受けたものですが、中国の出版文化を手本として、これを幾つかの観点から分類整理することによって、和刻本の諸相は一層色鮮やかに見えてくると考えられます。1. 儒教文献の概略2. 歴史文献の概略3. 思想・文学・芸術文献の概略4. 出版機構による概観5. 時代による特徴6. 奥付など技術的な諸問題という大まかなテーマで、縦覧してみましよう。	高橋 智	慶応義塾大学 斯道文庫 教授	土曜日 ①7/18 2・3・4 時限 ②7/25 3・4 時限	締め切りました
	4 漢籍調査と分類 これまでは、漢籍(和刻本漢籍や準漢籍を含む)の調査での留意点を幾つか述べた。今回は、書誌調査を終えた資料を、著録規則に拠りながらどのように纏めていくか、更にその資料を伝統的な分類に拠りながら、如何に分類するか、等について述べる。第①日は、書物の書誌を記入した資料を、伝統的な分類に拠りながら、如何に分類するか。この視点に立って、分類の歴史や、分類項目の大方の意味、また分類上での注意点を。第②日は、書誌を記入した資料から、著録規則に拠りながら、目録原稿を作成する上での注意点や、また如何なる参考書を使用したか、現物からすぐに見出せないが、しかし現物の実相を浮かび挙がらせる事ができるかを、演習形式で行なってみよう。	高橋 良政	日本大学 教授	土曜日 ①12/12 2・3・4 時限 ②12/19 3・4 時限	締め切りました
演習講座 *(本学授業科目)	5 漢籍書誌学 漢籍の目録作成と解題執筆を通じて、漢籍書誌学の基本を学習する。実物を手に取り、版面の比較、調査カードの記入など、実践的な演習を行う。	高山 節也	本学 教授	水曜日 3時限 前期・後期	締め切りました
	6 古文書解読講座 江戸～明治期の儒者・医者など、漢字漢文に素養のある人々の、書簡・日記・書幅などの肉筆資料を中心に読解していく。一般に漢籍と違って、国書では書写資料の占める割合が非常に高く、ことに江戸～明治期の漢詩漢文は、同好者間に小部数流通した場合が多く、この分野を扱う以上、書写資料の読解は避けて通れない。多くの資料に触れて、当時の書体・用字・用語に習熟して欲しい。	町 泉寿郎	本学 専任講師	火曜日 7時限 前期・後期	締め切りました
	7 『中世随筆』の研究 鴨長明・ト部兼好の作品を取り上げ、中世随筆の特色を文体の方から究明していく。長明の『方丈記』は慶滋保胤の『池亭記』の影響を強く受けており、漢文訓読的な文体を有する。それに対して兼好の『徒然草』は、『源氏物語』・『枕草子』等の影響を受けて、和文のかった様相を呈している。その両者を取り上げることによって、現代の文体にまで及ぶ我が国の文体史の初めをきわめていこうというのが本講座である。	磯 水絵	本学 教授	水曜日 6時限 前期・後期	締め切りました
	8 古訓読解演習 現行の漢文訓読法は返り点や送り仮名の標準化に大きな寄与をしたが、それだけでは実際の刊本や写本に付された訓を読みこなすことができない。そこで、寛文年間刊「六臣注文選」を教材にし、古訓読解の演習を行いつつ、中国語学と国語学との両面から考察を進める。(受講生は演習担当が義務)	佐藤 進	本学 教授	火曜日 4時限 前期・後期	締め切りました

注) 1. 開講時間 = 2時限: 10:40～12:10 3時限: 13:00～14:30 4時限: 14:40～16:10 6時限: 18:00～19:30 7時限: 19:40～21:10

2. 前期・後期 = 前期: 4/13～7/15の15回 後期: 9/25～12/25・1/8～1/18の15回

3. No.2「江戸の漢詩」の開講予定日 = 前期: 4/9、4/23、5/7、5/14、5/28、6/11、6/25、7/9、7/23、7/30

後期: 9/10、9/24、10/8、10/22、10/29、11/12、11/26、12/3、12/10、12/24、1/14

4. 開講日等 = 開講予定日・教室は、講師及び学内行事で変更することがあります。

また、夏期休業は 8/5～9/25、冬期休業は 12/26～1/6 です。